【参考】自衛隊馬毛島基地(仮称)建設の動きと地元の現況
自衛隊馬毛島基地(仮称）の全体像が明らか

2021 年 1/20 西之表市市議：和田香穂里

馬毛島の基地化計画については、昨年の「特別決議」でおおまかに触れたところだが、昨年 8/7 の対西之表市長・議長と、11/25 の対県知事の防衛省説明によれば、馬毛島は
①陸海空自衛隊が訓練・活動を行い得る施設
②整備補給等後方支援における活動を行い得る施設
③米軍 FCLP 施設として、自衛隊馬毛島基地(仮称）が整備されることが明らかになった。

国が新たに土地を購入して、訓練施設、飛行場施設及び港湾施設を持つ、「複数の防衛施設に匹敵する利用価値の高い施設（基地)」を作るという、前代未聞の計画である。

①については、F-15 等の自衛隊戦闘機によるタッチアンドゴーや、悪名高い F-35B そしてオスプレイの訓練をも含む１２種類もの訓練が示され、米軍 FCLP も含めた訓練日数は航空機だけで年間 150 日にも及ぶという。
②は大規模災害対応を前面に出しながら、実際は島嶼部での「有事」に備えた巨大な兵站拠点・展開拠点ということである。
詳細は西之表市または防衛省のホームページに掲載されている資料を参照されたい。
（YouTube「DEMO RESE Radio 今、無人島馬毛島が熱い」でも、和田が馬毛島問題について語っている。「たねたね to まげまげ」という動画も是非ご覧いただきたい。）

＜八板市長の反対表明とボーリング調査関連＞

これに対して八板俊輔西之表市長は「失うものの方が大きい」として「計画には同意できない」との所見（これも市 HP に掲載されている）を述べ、国・県にもそれを直接伝えた。
これまで曖昧だった「基地化反対」の姿勢をようやく強く打ち出したと言える。

しかし防衛省の動きは加速し、小学校区ごとに開催した住民説明会で「今がスタートライン、皆様のご意見やご質問を計画やアセスに反映していく」としながら、その直後の昨年暮れから馬毛島周辺の海上ボーリング調査に着手し（５月までの予定)、環境アセスメントへの手続きも進めるとしている。
このボーリング調査の目的は軍港の建設であり、市議会への説明では米軍が使用する可能性もあるとしているが、その場所は馬毛島でも最も豊かな漁場である。

馬毛島周辺で先祖代々漁を行ってきた漁業者（漁協組合員）約４０名の内の十数名が、
「海上ボーリング調査期間中操業できない」
「ボーリング調査によって漁場が荒らされ、基地建設によって馬毛島周辺で漁ができなくなる」
「知事による許可は、漁協の同意書が無効（総会を経ていない）の上、漁業への影響がきちんと評価されていない」
等を理由に、国に対しては、海上ボーリング調査差し止めの仮処分を求めて東京地裁へ、鹿児島県に対しては調査許可の取り消しと許可の執行停止を求めて鹿児島地裁に、それぞれ提訴している。

東京地裁の判断は 3 月頃、鹿児島地裁は 2 月 1 日に最初の口頭弁論が行われる見通しとなっている。漁業者にとってはまさに死活問題なのだ。

市民の動きとしては、11 月に 30 万筆を越える反対署名を防衛省に届け、ボーリング調査反対集会、馬毛島基地化反対集会・デモを行うなど、反対運動を活発化させており、デモには 150 名もの市民が参加した（人口 1 万 5 千の西之表市の 1%、大阪市なら 2 万 7 千人に匹敵する)。

市議会も、任期最後となった 12 月の本会議で、国と県とに対して、反対の主旨の意見書を決議

し提出している。和田も賛成討論に立ち、10 対 3（賛成派 1 病欠）の大差であった。

＜入札公示に対して市長が抗議＞

　こうした地元の強い意志表示を顧みることなく、防衛省は 1 月 8 日に馬毛島に係る詳細検討（設計）と外周道路の工事について入札公告を行った。
　この詳細検討に関しては、昨年度中にまだ土地買収も決まっていない段階で予算化されていたことから、八板市長が強く抗議し一度撤回されている。
　その際防衛省は謝罪とともに「事前に丁寧に説明する」としていたが、その説明が無い段階で入札公告の件が明らかになった。
　八板市長は
　「地元の理解が得られていない状況下でこれ以上計画を進めて欲しくない旨、伝えている」
　「市議会は計画の撤回と手続きや調査等の全ての中止を求める意見書を提出している」
　「住民説明会でも不安の声が多数上がった」
　「あらためて防衛省の対応について遺憾の意を伝え、強く抗議するとともに、入札行為の撤回を求める」
と強い態度で防衛省に抗議文を出したが、これも全く無視されている。

＜西之表市長選・市議選＞

　そして 1 月 31 日には西之表市の市長選・市議選が行われる。当然最大の争点は馬毛島問題である。
　市長選に関しては、昨年中に「反対派」現職と、「賛成派」新人 2 名（前回も市長選に出馬した元市議と、商工会長）の 3 名が名乗りを上げていたが、年明けに「賛成派」元市議が出馬を取り止めると表明し、いわゆる一本化が図られ、「反対派」現職と「賛成派」新人の一騎打ちとなる（はずである）。

　単純に考えれば反対派現職が有利なのだが、現職の人気が今ひとつであり、その理由はいくつか挙げられるが、はっきりと「反対」を内外に表明するのが遅すぎた点が大きく響いているのは間違いない。
　また現職としての職務があるため、選挙前に本人が動けないこともマイナス要因になっている。対して新人は、基地化による「メリット」を（防衛省は交付金などの詳細を一切示しておらず、根拠が明らかでないにもかかわらず）書きまくったピカピカのチラシ数種類を次々に配り、後援会宣伝カーも活発に動いている。
　この新人（商工会長）の裏には自民党、表には商工会、農協、漁協、建設業などの中心人物が名を連ねており、カネ・モノ・ヒトをふんだんに使って運動を展開している（と見える）。

　賛成派市長が誕生すれば、事は一気に進むだろう。何としても阻止するためには現職を当選させると同時に、市議会も今まで通り反対多数を維持しなければならないが、これも非常に危うい状況である。
　市議会は現在の定数から 2 減の１４議席を１７～１８人で争うことが予想される。
これまでは 10 議席を占めていた反対派だが、引退があり反対派現職が全員当選しても 7 議席。
　反対派新人を最低 1 人は当選させたいが、反対派新人 2 人はかなり厳しい状況だ。
　現職も、反対派のほとんどは前回が下位当選であり、楽観視できない。

　一方賛成派候補とされる 7 ～ 8 人は現職・元職・新人いずれもかなり票を固めていると噂されており、そのうちの数名には、賛成派市長候補と同じ「支援者」が付いていると思われる。

　これまでの様々な活動を通して、「馬毛島基地化反対」の思いを持つ市民はまだまだ多数派だと感じているが、基地建設や米軍訓練移設によって、交付金やその他の経済効果を期待する声は次第に大きくなっている。

高齢化少子化過疎化が深刻な離島では、国がちらつかせるアメについ手を出してしまいたくなる。それを見越した計画であることは間違いないのだが、選挙を控えてそのアメの宣伝が露骨になってきた。
また都市部と違って、居住地域の人口、親類縁者や同級生等の数が物を言うのが小さな地方自治体の選挙である。争点が直接票に結びつかず、公約や実績、人柄などは二の次ということも多々ある。
その点でも反対派の候補者より賛成派の候補者のほうがより有利な材料を持っている人が多いのである。

このように、市長選・市議選とも非常に厳しい闘いである。
馬毛島の、西之表市の、そして種子島の未来を文字通り左右する重要な選挙だということに、多くの市民が自覚的であって欲しいと願う一方、とにかく自分自身の当選を勝ち取り、２月の連帯ユニオン議員ネット大会で八板市長と和田の当選が報告されるべく、現在全力疾走中である。

2021年1/20　西之表市市議：和田かおり

（注）非常に残念なことに、1/31市議選で和田さんはわずか15票差の494票で次点落選残念！市長選では基地反対の現職市長が当選したが、西之表市は最も有能な基地反対活動市議を失った。和田さんの市議再起と和田さん達グループのご健勝を祈念します。
住民運動はいよいよ重大局面に。